日光街道400年の「むかし」と「いま」を同時に歩こう

徳川家康が日光東照宮に改葬された元和3（1617）年に街道・宿場がともに整備されたという日光街道。この日光街道は宇都宮までは奥州街道とも重なり、参勤交代をする奥州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した道で、宇都宮からはその宿場を経て日光に到着します。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部として辿った日光街道のうち、個木の宿場を自らの足で歩いて、昔の面影を探ぶつつ、現在の姿をまた見つめ直してみませんか。

御徒マップについて

日光街道には江戸千住を最初の宿場として日光の終石宿まで21の宿場があり、その1つ1つ歴史のつながりや見どころなど盛りだくさんでいました。このマップでは、この21宿のうち約8宿間の距木宿から終石宿までの12宿を中心に6冊に分けて編集します。これらの宿場の周辺には旅人の宿として繁盛した当時の名残りをとどめる様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われている行事もあります。さらに道中の自然や見どころなどに紹介しております。このマップを活用して、歩きながら、日光街道の"むかし"と"いま"をお楽しみください。

地図の凡例

旧日光街道	名所・史跡	その他のポイント
一般国道	トイレ	案内看板等
主要地方道	公園	観光案内所
一般道道	駐車場	官公庁
有料道路	並木道	

地図は日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1日図を使用。近世の日光街道を表色（道路幅の関係で、ところにより若干幅広図及び主変形使い、地図即は縮尺）で表しました。

江戸当時の姿をとどめる一里塚が残る
小金井宿

もとの名である金井村は、宿場の西、磯宮のあたりにあった小金井の井戸から名付けられたもので、集落も磯宮付近にありました。慶長6（1601）年までに人家が移り町割が行われ、そのときに村名も小金井に改められたといいます。

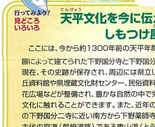
小金井宿は江戸から14番目の宿場。天保14（1843）年の記録では、宿内の長さは南北6町42間（約730m）、本陣と脇本陣が各1軒、旅籠は43軒ありました。日光側から上町・中町・下町となっていて、中町に本陣、脇本陣があったようです。

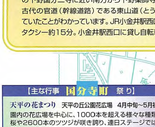
現在も残る「小金井一里塚」は、旧街道を挟んでその塚が日は反形をとどめており、日光街道の貴重な遺構の一つとなっています。

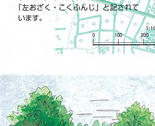
❶ 磯宮神社

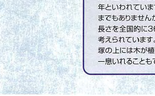
❷ 稲荷神社

個原新田を開拓した住民が、万治2（1659）年に創建したといわれます。この地には、往古から稲荷御殿峰と号された松林の中に小高い台地があり、神秘的な容貌気を漂わせていたところもいた。









行ってみよう！見どころいろいろ
天平文化を今に伝える しもつけ風土記の丘

ここには、今から約1300年前の天平年間に聖武天皇の発願によって建てられた下野国分寺と下野国分尼寺があります。現在、その史跡が保存され、周辺には県立しもつけ風土記の丘資料館や県埋蔵文化財センター、民俗資料館、天平の丘公園、花立場などが整備され、豊かな自然の中で史跡を複合的な天平文化に触れることができます。また、近年の調査によって、この下野国分寺に中心に約3キロ四方が条里制の方格に区画されて、古代の官道（幹線道路）である東山道（とうさんどう）が延びていたことが分かっています。JR小金井駅西口から西へ約4km、タクシーで約15分。小金井駅西口に貸し自転車もあり。

【主な行事 国分寺町 祭り】

天平の花まつり　天平の丘公園花立場　4月中旬～5月初旬
園内の花立場を中心に、1000本を超える様々な種類の桜や2800本のツツジが咲き誇り、週ごとステージでは多彩なイベントが行われます。

天平の祭まつり　天平の丘公園花立場　11月初旬～中旬
天平の衣装合わせや時装パレードなど、聖武天皇に扮した人物が登場します。聖武天皇が行った華厳滝や下野国分寺伽藍配置の模型は圧巻です。会場では「天平の宇宙会」も行われ、約3000食のご飯が行われます。

❸ 薬師堂

❹ 蓮行寺

❺ 小金井宿日本陣跡

❻ 金井神社

❼ 磯宮

❽ 磯宮寺

❾ 領主陣屋跡

❿ 感喜寺

上野国の豪族である新田義兼により建久7（1196）年に創建されたと伝えます。境内には江戸時代の薬師堂として国指定堂宇建様が現存しています。また、本堂南側には徳川将軍社参の際の御成御殿がありました。

⓫ 磯宮付近

このあたりに磯宮の語源となった「小金井」と呼ばれる井戸があり、徳川将軍社参時の御膳水に使われたといいます。現在は運動公園として整備され、井戸や境宮の位置は特定できません。

⓬ 小金井一里塚

明治初年の道路改修の際、旧日光街道のすぐ東側に街道4号が開通したため、取り残される形で保存されました。国指定の史跡となっており、江戸時代の一里塚の様子がよくわかります。江戸から22里目の一里塚です。

⓭ 旧日光街道

⓮ 新田宿北口の石仏群

⓯ 磯宮（磯原小神社）

⓰ 幕府代官陣屋跡・薬師堂

⓱ 新田宿本陣跡

⓲ 新田宿南口の石仏群

寛政12（1800）年の道標を兼ねた馬頭観世音には「左さくく道」とあり、その右側には道標を兼ねた宝暦2（1752）年の六十六部供養塔があり「左おさく・くくゆんし」と記されています。

日光山が望めた街道一小さな宿場
新田宿

ここは千住新宿・大町新田・大町村とも呼ばれたところで、日光街道の宿駅が置かれており新田宿または新田町とも称されました。明治6（1873）年からは羽田宿と改称され、今は小山市羽田となっています。

天保14（1843）年の記録では、宿内の家数59軒（加宿共、うち本陣1、脇本陣1、旅籠11）で人口244人（加宿共）、宿内の町並みも3町余（約400m）と、新田宿は日光街道の宿場ではもっとも小さな宿場でした。江戸時代、このあたりは田畑が広がり、日光山や赤城山・太平山が見渡せたようです。今その風景は望めませんが、本陣を務めたいわれる青木家の木の門などが往時の面影をとどめています。